

第2回 千歳市かわまちづくり検討会 議 事 要 旨

■日 時：令和6年2月29日(木) 13:30～15:00

■場 所：千歳市民文化センター 北ガス文化ホール 3階 中会議室2

■出席者：

千歳市かわまちづくり検討会委員 12名

堀野会長、菊池副会長、鈴木委員、吉田委員、佐々木委員、北山委員、松澤委員、
角谷委員、稲澤委員、京野委員、宮川委員、川田委員

※矢部委員は欠席

■議事内容：

次第に沿って、事務局（千歳市）から説明。

○資料1：第1回検討会の振り返り

- ・事務局から、前回課題となったターゲットや動線の検討状況等を説明。
本計画を作成する上でのターゲットは、市民、観光利用の両方を考慮した内容とするについて了承された。

各委員からの発言等は以下のとおり。

- ・地元の住民、観光客の両方がストレスにならないような環境が必要と思っており、ターゲットについては、事務局提案のとおりでよい。

○資料2：アンケート分析結果について

- ・事務局から、アンケート結果に基づき、目的・必要性の点数が高く、また、優先順位が高い4つの施策を中心に今後の検討を進めていくことを提案し了承された。

各委員からの発言等は以下のとおり。

1) アンケート集計結果について

- ・インディアン水車橋左岸は、コロナ禍以前は鮭の捕獲作業がない季節限定で通行可能であった。但し、鮭の捕獲作業時はトラックの出入りもあり交通整理では通行が難しいため、通年で通行可能とするためには別の方策を考える必要がある。

- ・サイクリングルートは、石狩川流域圏ルートや札幌恵庭自転車道との接続は想定しているか。

→石狩川流域圏ルートや札幌恵庭自転車道との接続は今後、開発局や恵庭市と意見交換しながら検討していきたい。（事務局回答）

2) 検討範囲の拡大について

- ・カヌー利用に関して、国道より上流区間では、ウサクマイ遺跡付近をスタート地点として利用されているので、下流に設置するカヌーの発着場については、利用者等の意見も聞きながら、どのあたりにこういった整備等が必要なのか検討するのが良い。
- ・現状のカヌー利用を考えるとウサクマイ遺跡や名水ふれあい公園、スポーツセンターがポイントになる。千歳市の観光利用の観点でも、縄文時代の遺跡であったり千歳の文化を感じられるため、そこから人が流れることを視野に入れた計画になるとよい。
- ・カヌー以外にも支笏湖まで続くサイクリングロードがあることや、道央自動車道の高架下付近の河川敷でバーベキュー等によるごみや不法投棄が問題になっているため、上流区間も含めて考えた方がよい。
- ・千歳川の手つかずの原生林と街中の景色を対比しながらカヌーに乗れると面白い。今後、北海道の管理区間の扱いは千歳市と相談していきたい。

3) グリーンベルトへの人道橋整備について

- ・グリーンベルトが千歳川で分断され、一体的活用ができていない。人道橋により往来可能になれば、千歳中学校から旅人の森までの間と、川と並行する遊歩道を活用して散歩やジョギングに活用する市民が増えると思う。
- ・かわまちづくり計画で、親水広場周辺を重点施策として検討するのであれば、この機会に一体的に整備するのが効果的と考える。
- ・動線を考える際には、誰をターゲットとし、どう動かして、ここに人を呼ぶのかということが大事だと感じた。
- ・千歳川沿いだけでなく、グリーンベルトを含めた縦と横で周遊性があると、市民として使いやすいと思う。
- ・人道橋が仮にできれば、新たな人の流れはできると感じた。
- ・人道橋を架けても、グリーンベルトがしっかり維持管理されていないと利用されなくなる。整備にあたっては、このようなことも含めて総合的に考える必要がある。

- ・土地の整理には時間を要するが、イベント等の実施にあたり、空いている土地の活用を計画しているところ。「ウォーカブルなまち」というのを考えると、人道橋を整備することは大事であり、先に人道橋ができるのであれば、その場所を活用した様々なチャレンジができるようになると思う。

4) ボランティア組織の立ち上げについて

- ・中心市街地から道の駅がある清水町、東雲町、末広、青葉等のエリアは住民の高齢化が課題となっており、既存団体を母体に千歳川で活動している方を募って、維持管理を担う組織はできないか。
- ・現在、清流と緑を守る市民の会では自衛隊と町内会の協力を得ているが、年齢層が高いエリアは人数が集まらないこともある。そのエリアの人だけでなく、もっと協力したいと思う市民が増えれば、活動を継続していけると思う。
- ・組織が必要というより、川に興味・関心を持ってもらう仕組みが必要で、かわまちづくりの観点で、どのように川に興味を持ってもらうかを検討し、組織が必要となった場合は立ち上げや、既存組織との連携等を検討するのが良い。

○資料3：千歳市かわまちづくり計画について

- ・事務局から、コンセプトや定量的目標の案、かわまちづくり計画（一次案）に盛り込むソフト・ハード施策候補を提案。
- ・コンセプトについては、計画書に記載する際に、地域住民への配慮事項なども盛り込んで記載することに決定した。
- ・定量的目標については、観光入込客数と道の駅サーモンパーク千歳来場者数とすることに決定した。
- ・ソフト、ハードの各施策案については、想定する実施主体が各種助成制度の活用などの実現性について、次回検討会までに確認することとなった。

各委員からの発言等は以下のとおり。

- ・計画のターゲットは地域住民と観光の両方としていたのに対し、提示されたコンセプトは観光に関わる文言が多いため、地域住民に触れる整理も必要と感じる。
- ・町内会でごみ拾いをした際、川の中にごみが落ちていることを子どもが気にしていた。過去には、川の水量を調整し、川の中に入って清掃したこともある。このような取組は、川に対する愛着を生む意味で、また、情操教育の観点からもよい取組であり、今後も実施できないか。

- ・千歳川では水道や農業用水の水利流量を確保する必要があり、その支障にならない範囲で王子製紙(株)に協力を依頼し、水量を落とすことは調整できる。
- ・ごみ拾いイベントは、子どもたちと一緒に実施することが重要である。市民の意識醸成も図り、千歳市として「リバークリーンの日」を設定し、市内の小中学校、高校、大学も含めて全員で取り組める日があるとよい。
- ・イベントとは別に、日常的にごみ拾いができる仕組みがあるとよいと感じた。洞爺湖の「火山マイスター」のようなものを想像しているが、例えば、ボランティアの組織に腕章等を渡し、その人が拾ったごみについては、水族館で引き取ってもらえるなどの仕組みがあると良い。

以上